

起因

国道19号は、名古屋市から長野市に至る延長約270kmの主要幹線道路である。

名古屋市から岐阜県中津川市の延長約90kmのうち、瑞浪・恵那間のみが唯一狭小な対面2車線道路であり、急坂やカーブが続いている。

沿線には、工業団地や企業の物流交通が集中し、大型車両の交通量割合が高い状況にある。また、住宅地からの生活交通や行楽期には観光交通も流入し、近接並走するJRの駅周辺を中心に渋滞が発生しており、国道19号の他の区間と比較し大型車両が絡む事故や渋滞がたびたび発生している。

このような背景から、瑞浪恵那道路の整備により、渋滞、交通事故等の交通課題の解消や地域間交通の円滑化を図り、地域間交流の促進による地域経済の発展や生活圏域の拡大など地域の活性化に寄与することを目的とする。

事業経緯

平成8年12月 「瑞恵道路整備促進協議会」 設立

平成26年4月 都市計画決定 告示・永久縦覧

令和3年現在 土岐地区：下沢公民館東側「瑞浪1号橋」(JR・土岐川を架橋)の橋脚及び橋台の施工
名滝地区への工事用進入路の施工及び名滝地区本線の掘削
釜戸地区：公文垣内～名滝(市道・東濃用水道3号)の函渠(ボックスカルバート)の施工
及び本線の盛り土工
諏訪神社前の函渠周辺の東部広域水道の移設
中井用水の付替え及び「瑞浪3号橋」(洞沢川)の橋台の施工及び側道整備

道路形状は、JR中央本線南側のほぼ平行した新たなルートで、道路幅員16.25m(4車線)、開通時は暫定形(2車線)となる予定。 設計速度 60km/h

2027年リニア中央新幹線開業までに開通を要望している。

